コンミューン

No.6

文学部斑疫斗争委員会
宣伝局発行
7/12

対教育教授団、25時間徹夜団交の勝利を斗いの一大突破口とせよ！

＝橋本学部長代行、教育学生委と対評試長大衆団交実現への尽力を文書で確約＝

昨夜行なわれた教育大のすべての学友諸君！

一、昨日の午後四時から昨日の五時に及けて行なわれた教育学部長、評試委員との大衆団交の報告を全学友の前に提起したい。我々はこの大衆団交において(1)教、教授団で何が話され、何が決定されたか(2)6・20調査ヒ計上て決定ヒ撤回(3)対学長、評試団団交斡旋を要求し、25時間にわたる徹めて苦しい斗いの右、次のような確認事項を学生委員、学部長代行との間に勝ちとったことを報告したい。

確認事項

一、橋本評試委員（教育学部長団交）は、教育学部学生委員団と共に、教育学部教授団と、評試団と全学生との大衆的話し合い斡旋が決定されるよう努力する。

一、もし万一、教育学部教授団で上記の斡旋が否決された場合には、ただちに、文学部学生を含む全学の学生と、教育学部教授団との大衆的話し合いを持つ。

一、教育学部学生委員団は、評試団との大衆的話し合いについて、以下の点を付加して発試する。

①日時は、七月一五日以前とすること。

②議題は、6・20調査ヒ計上問題とすること。

以上を、文学部斗争委員団ヒ確約する。

（自治会委員長　澤沢秀）

（教育学部斗争委員会）

二のように、我々は、橋本学部長代行、庄評試委の沈黙戦術、あるいは事の核心を外した回答とういえぬ回答にも屈せず、対評試団交実現へのステップをかちとったのである。

一切の悪質なデマとそれを利用した斗争妨害策動を糾弾する！

我々の断固たる斗争に対して、教育学部自治会教行部は、悪質なデマを流布し、斗争の歪曲を行なうと同時に、斗争妨害策動に狂奔している。これに対し、文斗争委は、事実を通をはっきりと述べるとともに、悪質な教育学部教行部のデマと斗争妨害策動を糾弾し、責任ある態度をとりたい。

(1)周知の如く、教授団は当初にも拘らず教授団団交の斡旋に積極的に、自らの"つづら折"などという所で、「教育研究団」なる名目で面談を行なったのだ、それに対し、我々は大衆行動を起し、教授部のつまずき教育学部の学生が、「などというような、のらりくらりとした特期方針と学部セクトに固執した方針に対して、我々の要求貫徹のために献身に行動し、本学へ戻ることに成功したのである。

(2)ところが、本学へ戻ってからも、教授団団交斡旋の学生と団正式なルート（学生委員）を通してでなくこそこそきないいなどと我々のへかかの要求を踏み形式論理で踏みにじり（自治連役員例を無視していること

偽瞞的な「適当な時期まで延期……」。

のきずかに、教・教授団は6・20決定に対し、「それは決定で

ないばかりか主張し続けてきた。理由を示すことなく、いい手続きに要請ありとして適当な期間をおくようなはずはあるまい。それについてはMP再審査に至ったことを決定したと報告した。だが、これが調査に計上どのものを肯定した上での手続き上の若干の手直しであり、て適当な期間とは長く不都合であり、それを決定するのも恣意的になされる仕組みになっており、学生のヨリに幻想を持たせることによって崩壊させる意図があることは明白である。我々学生の圧倒的多数を何とかして弱めようとする処置であることは一目瞭然ではないか！我々は、このような暴挙政策の意図をはっきりとつかみ、決定機関をあくまでも求めてゆかねばならない。

②カニに、今回の調査に計上は、移転を前提とした準備調査とではなく移転の可否を決める基礎調査とであり、移転の最終決定ではなく、途中下車もできるのだと主張した。

だが冷静に考えてみよう！今回の調査に計上がの形与の6・10決定へ土地確保へ6・19文部省交渉へMP委設置の流れに沿って行なわれ、しかも③MP委へ移転推進派の牙城へから提案され、③文部省は、移転を前提とした調査に以外の調査とは考えられぬといってこれること④又、調査に計上をした国立大学を移転を中止した例がほとんどないこと⑤理農学部でな移転促進のための調査に計上としてこれること二点。方向という大規模な策であり、文部省の都合を第一義的計のおいをうけこれる現実から、移転推進のための物質的保証であることは明白さはないか。

こうした我々の事実をもとにした追求に対し、福本代行は「事山局長、事山室に確かめこいるからして信頼しているからして基的調査にであり、基本的にもそうなるはずであると」と軽く現実を見ることなく主観主義的一要素をとスプリックに論り逃すだけで我々に納得いく説明を拒否したこの理由は決して許されるものではない。

⑦オニに、学長部武協団交の解産については一切理由を示すことなくイヤ久しなどというこの態度は、我々の調査と計上を認め施設整備費に手を貸すことになることを確認しなければならない。

教育学部の学友諸君！我々はこのような主義主義的言辞に決してまどわされてはならない。

次默＝暴力による乗り切り策動を粉砕した大衆的結集力と我々の論理的優越性……

このような福本代行の事為な次默＝暴力によるのり切り策動を粉砕し、団交斡旋を勝ちとった要因は何であるのか？それは一部の諸君のいわゆる立てるような「論理的圧力」「リンチ」でつるし上げ」などというちのでは決してない。それは明確に、団交に結集したのべ二〇〇名の固い意志であり、我々の事実をもとにした論理的優越性と我々の行動の絶対的正当性なのだ。我々の追求に対して、あれやこれやと口実を考え、方針を破算するに次默するという彼らの態度は、なんとしてでも自己の行為＝6・20決定の正当性を擁護させようとする以外の何ものでもなく、このようなことを決して我々は許せないのだ。「物理的圧力」「暴徒集団とわめきたてる諸君、諸君のそのような発想は、現象面をあげつらい事故そのような目事態な生起せざるをえなかったのかについて一切触れてはいないのだ。マ、それを云いふやすことによって自らの斗争放棄を隠蔽し、斗争に主体的に関わろうとする学生の間にワクチンをわこみ、斗争の解体化をもたらし、自らのセクト主義的宗派活動を行なうことなのだ。更に犯罪的なことには、事実を歪曲し、思考なデマをふりまくことによって斗争の意義を歪め斗争放棄を強制し、斗争に主体的に関わろうとする学生の怒りを買うことは必至である。

更に対話計四団交実現をめざして隊列を強化せよ！

暴理攻略団交における告山室長＝次默戒術への屈伏を我々は打破し、学部自治会則の美名による学部自治会の解体を許さず、学長部武協団交の即時開催を要求する。

（文責　教育学部　福本）

13日学生大会の意義は何か

13日にむけようとしている学生大会の意義と性格は何であるのか。それはおよそ以下の点にもとめることができる。

①26日以来の我々のストライキ斗争がいかなる局面をきりひらいてきたのかを明らかにすることである。とりわけ本館封鎖戦術が、我々の団結は意志を鋭くきたえ、それによって大学当局に一定の動揺を与えていること、並びに全学の斗争に明確な結集点を与えていることを、はっきりと確認する必要がある。それと同時に我々の斗いのうちにあったさまざまな弱点を、組織体制、理論内容等の側面について、明らかにすることも必要である。

②現在の局面を明らかにすることである。理学教の教養学部のワクを突破した、我々の大衆団交によって、教授会内部にどのような動揺が生まれつつあり、また移転推進派はそれをどのりきりはかり、移転反対にむけて、どのようなプログラムを実行しようとしているのかを具体的に明らかにしていくことが必要である。同時に主体の側の状況をも点検しなければならない。

③夏休み返上を含む我々の斗いの体制を再確立することである。とりわけ、15日M中委(三)、18日新学長就任、22日文部省への予算請求等にむけての意志一致をかちとるとともに、長期化した場合にそなえ、夏休みをも返上して斗いうる体制をととのえよう。

現在の組織的に斗争放棄"している学友が、すみやかに「本館封鎖解除」をかかげ、大学当局と一体となって斗う意志の拡大をはかろうとしている。各クラスでの討論の蓄積によって、こうした策動をうちやぶり、前記したような内容と方向性をもった学生大会を断固としてかちとろう。

学生大会にむけクラス討論を展開しよう

前記した学生大会の意義を全クラスで討論し、また斗争委員会で、報告討論されたことを、クラスの全員に知らせよう。またクラス毎の中間総括を行い、夏休み明けこのクラスの斗う体制を確立しよう。(夏休み明に学校に泊りこんで合宿を行う等)学生大会を、クラスからの斗う意志でうめつくし、調査ヒ討上撤回!、統一移転阻止をかちとり、更に更に斗いを強化しよう。

各クラスで斗争体制の点検と再確立をはかり13日学生大会に総結集しよう!

本日文学部長との就職事務再開をめざす大衆団交に結集せよ!

この間大学側は、我々の三館・本館封鎖による斗いに対して、就職事ムのストップをもって四年生に対する切り崩しの策動を行ってきた。だが我々は調査ヒ討上撤回も就職事ム再開もともにゆるすことのできない正当な要求であることを確認し四連協を中心にさまざまな努力を続けてきた。そもそも、三館・本館封鎖は、調査ヒ討上・団交拒否を行ってきた評議会に対する対抗手段であり、評議会にその責任をとらねばならないのである。しかも移転関係の重要書類はすべて埋びだしているにもかかわらず、就職関係の書類を残してあるということは、当初より、これを利用しての切り崩しを意図していたものに他ならない。我々はこうした意図を見抜き、調査ヒ討上阻止のための斗争体制(三館本館の封鎖)を維持しつつ、同時に就職事ムの再開をもかちとらねばならない。しかもこの切り崩し策動が、四年生の動揺を誘発しつつ、三館本館のバリケード撤去をもくろむものである以上、単に四年生にのみまかしておくべきことではない。すべての学友は文学部長との大衆団交に結集しよう。

G三〇七にて11時より

理論局より

本日9時より移転反対連絡協議会副議長を招いて、「統一移転研究学園都市構想について」と題して討論と、シンポジウムを行います。大衆団交と時間が重なり、しかも団交の方に、当然ながら力点がおかれねばならないことから、小規模にならざるを得ませんが、最低クラスから二、三名は出席して下さい。討論の内容は文章化し、全クラスに配布します。

G二〇二にて九時より

討議資料「統一移転阻止斗争の勝利めざして」を充分活用し、討論して下さい。

スケジュール

9時 集会
11時 文学部長との団交
2時 クラス討論
6時半 斗争委

9時 シンポジウム
統一移転研究学園都市について
訓師 移転連副議長
G202